

保健体育科 授業の様子 授業者：山本一博

保健体育科では、1学年「フリーの味方へボールをつなげ! 台形ゴール・ハンドボール」(球技・ゴール型)の単元で授業を公開しました。単元のねらいは、「仲間と連携した動きで、ゴール前での攻防をすること」です。本時は、ゴール前でフリーでシュートをするためにはどのようにすればよいかについて考える場面で、ゲーム記録と動画を見て、「3つの視点」(ボール操作、ボールを持たないときの動き、判断)を基に課題を捉えることを通して、チームの連携について成果や改善すべきポイントを仲間に伝えることを目指しました。



【前時まで】単元の学習問題「ゴール前でフリーでシュートをするためにはどのようにすればよいのだろうか」を設定し、単元の学習課題を「ゲーム記録と動画を見て、3つの視点を基に課題を捉えよう」と据え、生徒は、3つの視点を基にしてクラス全体の共通課題やチームの課題をゲーム記録とゲームの動画を見て捉える学習を積み重ねてきました。

【導入】本時の導入では、教師は、単元の学習問題と学習課題を確認し、前回の試合をチームで振り返り、チーム内で課題を共有するように促しました。

【展開】生徒は、チームの課題解決につながる練習方法を選択して取り組みました。ボールキャッチの精度を高めるための練習や、実戦に近い形で、ディフェンスの様子を見ながら空間に動くことなどを練習しました。練習後に行った試合では、ハーフタイムには、ゲーム記録から前半を振り返る場を設けました。生徒は、「ボールキャッチができる回数が増えてきたから、シュートを打てる回数が多くなった。」というボール操作における成果を実感したり、「相手の守備の位置を確認し、フリーの人へパスをする判断が大事だと思った。」という判断における新たな課題を発見したりし、後半の試合に臨みました。

【終末】試合後に、生徒は、ゲーム記録から自分たちのフリーでシュートできた場面やシュートまでいけなかった場面を確認し、見たい場面を選んで動画を視聴して振り返りました。生徒は、動画を視聴することで、プレイ中には気が付かなかった部分についても確認することができ、チームの連携における成果と改善すべきポイントを明確にし、仲間に伝えることができました。

【研究会のまとめ】ゲーム記録と動画を併用することで、振り返りのときの根拠があってよかったとのご意見をいただきました。また、シュートの仕方やゴールエリアの工夫によって、より安全に攻防を楽しめるのではないかとのご助言をいただきました。今後も、生徒が生き生きと活動する展開を考えていきたいです。

「両手でキャッチしよう！」



「逆サイドが空いている！」



「フリーだ！ いけっ！」



「課題発見！」

